

部員たちの熱意と労苦が
呼びこむ「飛翔」気流——

Windnauts

(ウインドノーツ)



試験飛行

私たち東北大学

Windnauts(ウインドノーツ)は、一九九三年に創部し、毎年七月に琵琶湖にて開催されている「鳥人間コンテスト」に出場している、人力飛行機製作サークルです。私たちが参加している種目は、飛距離を競う「人カプロペラ機ディスプレイ部門」です。鳥人間コンテストには十三回出場していて、うち、優勝三回、準優勝一回を誇っています。ディスプレイ部門における飛距離の最長記録はWindnautsが保持しています。



カーボンパイプ製作
旬で、そこからの一か月で試験飛行を行い、大会に参加しました。
テレビでご覧になった方もいらつしやるかとは思いますが、琵琶湖の風に翻弄され、またGPSや無線などの計器の不調で、大幅なロスをしてしまったフライトでしたが、飛距離一八六八

七・二メートルの記録で優勝することができました。

さて現在とは言いますと、八月に二〇一一年度チームから代替わりをし、一年生二十四名、二年生十六名の計四十名で二〇一二年七月開催の第三十五回大会に向け機体製作を行っています。

機体製作は、製作するパーツごとに班分けをして進めています。班は、主翼、尾翼を製作する翼班、プロペラを製作するプロペラ班、パイロットの乗り込むコックピットを製作するコックピット班、パイロットの漕いだエネルギーをプロペラに伝達するシステムを製作する駆動班、尾翼を動かすシステムを製作する操舵班、パイロットとコックピットの空気抵抗を減らすカパー(フェアリング)を製作するフェアリング班、機速計や高度計などの計器類を製作する電装班の七つがあります。

Windnautsの機体は、九〇%以上を学生の手で作っています。中でも、機体の骨組みとなるカーボンパイプの自作は、機体の軽量化のために大きく貢献しています。カーボンパイプの製作は、九月終わりから十二月の中旬まで毎週末に行います。カーボンパイプは原材料の特性上、製作開始から終了まで休みなく作業をしなければならず、金曜の夜から日曜の未明まで徹夜の活動が続きます。カーボンパイプの製作は二〇一一年十二月に終了し、次の活動に移っています。

今後は早期の機体完成に向け、今以上に機体製作に励んでいきたいと思えます。応援よろしくお願ひします。



翼製作

Windnauts(ウインドノーツ)部長

工学部機械知能航空工学科

郷内 稔也